

トランプがロシアに対し、「オバマの援助する」テロリスト撃滅 の許可を与える

トランプ政権はシリアの“反乱軍”に、どんな援助もしないと通告した

【訳者注】このような（報道されない）ニュースひとつを見ても、米深層国家内部の一触即発的事情は、相当にせっぱ詰まったと見ることができるだろう。ほんの少し前なら、トランプが「米の援助するテロリスト」などというフェイク・ニュースを信じ、敵国の大統領と通じて祖国を売ったなどと、宣伝したかもしれない。もう、そんなことは言わなく（言えなく）なった。その余裕がなくなった。これに限らず、ここで紹介するわずかのニュースを見ただけでも、「全体が歯車に引き込まれるように」（と、前に私は言った）、事情が急展開していることが推測できるであろう。

David Newton, www.neonnettle

June 28, 2018



ドナルド・トランプ大統領は、ロシアのリーダー、ウラジミール・プーチンに対し、シリア南西部で活動を続けている「オバマの支援する」テロリストの残党を撃滅する許可を与えた。

最近の報道によれば、トランプ政権は、シリアの“反乱軍”に対し、米軍からのどんな支援も期待するなと通告し、ロシアの援助する政府軍の、反政府軍の占領するシリアの地域を奪回する活動に、反撃できなくした。

先月、Neon Nettle は、シリア大統領バシヤール・アサドが、米、英、フランス軍のシリアのテロリスト支援を弾劾し、彼らこそこの国の流血のすべての責任者だという声明を出したことを、報告したばかりだった。<http://www.neonnettle.com/news/4296-assad-the-west-funds-terrorists-in-syria-they-re-the-problem-not-us>

アサドの声明は、彼が自国民を攻撃しているという西側の主張に、応えるものだった。

「それは理屈にさえ合わない話だ——この話は」とアサドは、シリア国内での市民に対する化学攻撃に言及して言った。



Information Liberation の記者はこう言っている——「トランプは以前に、爆撃キャンペーンからの、何と気の休まる中断を実行したことだろう（これは私の推測では、深層国家を彼の背中から振り落とすためだった）！」<http://www.informationliberation.com/?id=58618>

「アメリカは以前に、シリアのアサド大統領と、その同盟国ロシアに警告し、昨年、米露間で合意した“エスカレーション中止ゾーン”の約束を破ることは、“深刻な反響”を及ぼすだろうと言い、“断固とした適切な処置”を取ると約束した。

「この厳しい言葉による声明は、西側に支援された反政府軍に、万一、シリア軍が爆撃を拡大して、南西部全体に攻撃を仕掛けるならば、米軍が干渉に入るだろうという希望を抱かせた。」

関連資料：「アサド：ドナルド・トランプは米を支配していない、深層国家が支配している」 <http://www.neonnettle.com/news/4167-assad-donald-trump-isn-t-in-control-of-america-the-deep-state-is->

アサドは、アラウィ少数派出身の世俗的穏健派で、幅広い民衆の支持を得て、テロリスト反乱軍が虐殺しようとするキリスト教徒を、保護している。

我々がこの男を殺して、もう一つのリビアやイラクを手にするというような考えは、全く狂っている。

米政府のこのメッセージはまた、反乱軍に対して、すべては彼等だけに任されている、シリア軍の軍事行動にどう立ち向かうかは、彼等や彼らの人民にとって何が最善と判断されるかに基づいて決定せよ、ということである。

「アメリカ政府内の我々は、君たちの直面している困難な条件は理解しており、依然として、ロシアやシリア政権に対して、このゾーン（の約束）に違反する軍事行動を取らないように忠告している」と、このメッセージは言っている。



シリア政権の最大の軍事同盟国ロシアは、日曜日、この国の南西部において、米やヨルダンとの停戦協定を無視して空爆を行った。

アメリカは、CIA の運営する軍事援助計画のもとに、7年の戦争期間中に、“穏健派”主流 FSA（自由シリア軍）に対して、数百万ドル分の兵器を支給し、数千の反乱兵に月給を支払ってきた。

しかし、アナリストたちは、米大統領ドナルド・トランプが、昨年、この計画を中止する決定をして以来、この援助はこなくなったと考えている。

これらの“穏健派”たちは、ISIS と同盟を結ぶテロリストで、子どもたちの首を切り落とす自分たちの行動を、映画に撮影している。

アサドとプーチンは、ISIS を壊滅させ、シリアに秩序を取り戻そうとしており、そのためには自分の国民の命や財物をも危険にさらす覚悟でいる。

それは、よしとしなければならないだろう。

——以上